

晩禱

(毎夕の祈り)

一同ひざまずき、準備の黙禱の後に次の唱和を用いる。

司式者

神よ、すみやかに我らを救いたまえ

会衆

主よ、とく、きたりて我らを助けたまえ

ここで一同立つ。

司式者

父と子と聖霊に栄光あれ

会衆

始めにあり、今あり、世々限りなくあるなり　アーメン

司式者

なんじら主をほめまつれ

会衆

主の御名をほめまつるべし

詩篇

ここで、定められた詩篇を歌いまたは唱える。一篇終わるごとに栄光の頌を用いる。

第一日課

第一日課の後に次の頌を歌いまたは唱える。この頌の前に、その日にふさわしい聖歌を用いてもよい。

聖なるおとめマリヤの頌

わが心、主をあがめ、わが霊は、わが救い主なる神を喜びまつる

そのはしための卑しきをも顧みたまえばなり

見よ今よりのち、よろず代の人割れを幸いとせん　全能者われに大いなることをなしたまえばなり

その御名は聖なり　そのあわれみは世々かしくみ恐るる者に臨むなり

神は御腕にて力をあらわし　心のおもいのおごれる者をちらし

勢いある者を位よりおろし　卑しきものを高うし

飢えたるものをよき物に飽かせ　富める者をむなく去らせたもう

また我らの先祖に告げたまひしごとく、アブラハムとそのすえとに対するあわれみを

とこしえに忘れじと、しもベイスラエルを助けたまえり

父と子と聖霊に栄光あれ

始めにあり、今あり、世々限りなくあるなり アーメン

第二日課

第二日課の後に次の頌を歌いまたは唱える。

シメオンの頌

主よ、今こそ御言葉にしたがって しもべをやすらかに行かしめたもうなれ
我が目は、はや 主の救いを見たり
これ、もろもろの民の前に 備えたまいしもの
異邦人を照らす光 御民イスラエルの栄光なり
父と子と聖霊に栄光あれ
始めにあり、今あり、世々限りなくあるなり アーメン

一同使徒信経を歌いまたは唱える。

使徒信経

我は天地の造り主・全能の父なる神を信ず
我はそのひとり子、我らの主イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのとき苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみにくだり、三日目に死にし者のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて生ける人と死ねる人をさばきたまわん
我らは聖霊を信ず。または聖公会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず アーメン

一同ひざまずく。以下、みたすけのための祈りまでを歌ってもよい。

司式者	主よ、あわれみたまえ
会衆	キリストよ、あわれみたまえ
司式者	主よ、あわれみたまえ

次に一同、主の祈りを唱える。

天にします我らの父よ、願わくは御名を聖となさしめたまえ。御国をきたらしめたまえ。御心を天におけるごとく、地にも行わしめたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いいだしたまえ アーメン

ここで司式者は立つ。

司式者 主よ、あわれみを我らに現わしたまえ
会衆 主の救いをあたえたまえ
司式者 主よ、正しくをもって主の仕えびとを装いたまえ
会衆 主の聖徒を喜ばせたまえ
司式者 主よ、主の民を救いたまえ
会衆 主のゆずりを祝したまえ
司式者 主よ、この世を安らかに治めたまえ
会衆 地のはてまで戦いをやめしめたまえ
司式者 神よ、我らの心をきよめたまえ
会衆 我らより聖霊を取りたもうなかれ
司式者 主なんじらとともにいますことを
会衆 主なんじの霊とともにいますことを
司式者 我ら祈るべし

ここで当日の特祷を用い、つづいて次の二つの特祷を用いる。

平安のため

もろもろの聖なる望み・良き思い・正しきわざのよとなる神よ、願わくは、しもべらに世のあたえ得ざる平安をあたえ、主の戒めに従うことを決心せしめ、また主の守りによるにありてあだを恐れず、おだやかに世を渡すことを得させたまえ。救い主イエスキリストのいさおによりてこいねがい奉る。アーメン

みたすけのため

主よ、御光もって我らの暗きを照らし、主の大いなるあわれみをもって今夜の危うき防ぎたまわんことを、御子・われらの救い主イエスキリストのいつくしみによりてこいねがい奉る。アーメン

ここで司式者はひざまずき、諸祈祷、嘆願、感謝を用いてもよい。
終わりに次の用に言う。

願わくは主イエスキリストの恵み、神のいつくしみ、聖霊のまじわり、我らとともに限りなくあらんことを。アーメン